

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4570201196
法人名	医療法人 与州会
事業所名	グループホーム やすらぎ
所在地	宮崎県都城市東町10街区18号 (電話) 0986-22-4850

評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎県宮崎市和知川原1丁目101番地
訪問調査日	平成19年7月31日

【情報提供票より】(19年 7月16日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	15 人
職員数	15 人	常勤 13人, 非常勤 2 人, 常勤換算 13 人	

(2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	3 階建ての	2 階 ~	3 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	38,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円	
敷 金	有(150,000 円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) <input checked="" type="checkbox"/> 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	200 円
	夕食	300 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 800 円			

(4)利用者の概要(7月16日現在)

利用者人数	15 名	男性	5 名	女性	10 名	
要介護1	5 名	要介護2	2 名			
要介護3	5 名	要介護4	3 名			
要介護5	名		要支援2	名		
年齢	平均	85 歳	最低	76 歳	最高	94 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	柳田クリニック・柳田病院 安富歯科医院
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、市内の中心地の交通量の多い道路に面しているが、陽当たりよく、ゆったりとした生活空間の中にある。母体法人のデイサービスセンターや病院、クリニックと隣接しており、関連施設と連携をとりながら入居者の生活を支援している。入居者一人ひとりの個性特に健康状態に応じた対応を行っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	管理者は、サービスの質の確保に活かそうと前回の評価に前向きに取り組んでいる。入居者の権利・義務については分かりやすく明示されている。鍵をかけるケアについては、見守り等で少しずつ開錠する時間帯を設けたいと考えているが、階上で安全面から、エレベーターに施錠している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の評価にあたっては、ホームの職員全員で話すことで担当外の状況も認識できケアに繋げる事ができている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4)
	家族に参加を呼びかけ、数家族が会議に出席している。自己評価の結果を報告したり課題への取り組みを検討している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	介護相談員の訪問を受け入れて第三者からの意見をもらうようにしている。今後ホーム便りを発行し、利用者、ホーム内の状況を家族へ報告する予定である。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホーム周辺は、公的な施設(警察署、医療施設等)が多く、地域との連携がとりにくい環境であるが、住民との交流や連携が行われていない。今後地域の一人として、自治会等に加入し、ホーム便り等を通して地域へ周知を計り、地域とのかかわりを積極的に取り組んでほしい。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホーム独自の理念を作り掲示している。	○	さらに、地域との関係のなかで理念の内容の見直しや検討を行ってほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティング時に理念を生かしたケアについて話し合い、共有化に努めている。入居者の意向を引き出すケアについての対応も検討されている。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議に地域の公民館長の参加を得て、地域の行事等の情報を得られるようになっている。活動参加まではできていない。	○	地域の一員として、地域とのかかわりを積極的に取り組んでほしい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の取り組みの中で、献立の偏りに気づき、母体法人の栄養士より献立表をもらい取り入れるなど、具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催し、地域の公民館長、利用者家族に参加してもらい、日常の報告等を行い、意見等出してもらうようにしている。		地域包括支援センター、行政関係者など参加していただき、さらに充実させてほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	必要時にはその都度相談、指導してもらっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時には状況報告をしている。また、状況の変化の度に電話で報告し要望等を確認しているが、内容は記録されていない。	○	報告内容や、要望等については、内容を記録し、情報を共有してほしい。また、金銭出納帳を家族に報告したら、家族の確認をもらうようにしてはどうだろうか。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話や面会時に、意見や要望がないか、確認している。請求明細送付時にも状況報告すると共に、家族の意向を確認するようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動日前に2、3回介護業務に従事し、利用者とのコミュニケーションを図り、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には積極的に参加し、受講後は、研修内容、資料等ファイルを作成し、各職員に配布している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入し、研修会に参加している。県南グループの勉強会にも参加している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家庭からの相談希望が先行し、直接サービス利用開始、入居になることがほとんどである。	○	利用開始前に、本人に試験泊やホームで昼食をとってもらいなど体験をしてなじみながら開始できるよう検討してほしい。
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、一緒に過ごしながら、顔の表情、動作を通して利用者の思いを推し量るようにしている。材料の切り方、味付け等を教えてもらいながら、支えあう関係作りをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族の申し出や面会時、また本人の表情、動作により利用者の思いや意向を把握するようにしている。	○	介護録を生活歴、利用者の状況、家族の意向等が記入出来るように検討中であるが、アセスメントシートの整備により適切な把握ができるよう工夫してほしい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当制を中心にケアマネ、管理者で意見交換話し合いをして、介護計画を作成している。電話、面会時の聞き取りで家族の意向の把握に努めている。	○	本人や家族、必要な関係者も含めて、意見を出してもらい、介護計画に反映できるようにして工夫してほしい。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状況の変化に応じて計画の見直しはされている。家族とは電話や面会時に話し合い、計画の変更の確認はされている。	○	状態の変化のない場合にも、月に1回程度、アセスメントをして、介護計画の見直しをしてほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者との食事、散歩等の家族の要望には可能な限り対応している。		
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の受診を支援している。また、協力医療機関の医師により、月2回の往診診療がなされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用開始時に説明し、利用者、家族の意向を確認している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護の関係法に沿って、対応している。事業所の入口には利用者、家族の了解が得られた人のみ氏名が掲示されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせて、介護を行っている。入浴も本人の意思、状況に応じて対応がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の力に応じて、準備、片付け等をできるだけ出来る事を一緒にするようにしている。	○	さらに、四季折々の季節感や楽しみの支援を工夫してほしい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	月・水・金を入浴日としているが、それ以外でも要望があれば入浴できる。シャワーは常時使用できる。利用者の状況に応じて、職員2人で入浴の支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	簡単なレクリエーション、手足の運動を行っている。		お茶、お花等のクラブ活動を検討中であり、今後楽しみごとの支援を充実させてほしい。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	年に2回の行事と月に1,2回の散歩を実施している。	○	日常的な外出ができるよう、取り組みを進めてほしい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	以前、利用者が外に出られ、また交通量の多い道路に面していることから家族の了解のもとに安全面を考慮して常時施錠している。	○	鍵をかけないケアに取り組んでほしい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	管理者は母体法人の訓練に参加している。ホームとしての利用者、職員の訓練は9月に実施を予定している。		継続した、防災訓練を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立表は職員が交代で作成している。水分、食事の摂取量を把握している。		2週間の献立を作成し母体法人の栄養士に栄養面などアドバイスを受ける予定である。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	異食をされる方があり、造花等を利用して工夫はなされている。	○	異食のある人への配慮をしながら、季節感や居心地のよい空間作りを工夫してほしい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使っていた鏡台など馴染みの品が置いてある居室と少ない居室とあるが、それぞれに絵や人形等を飾り雰囲気作りがなされている。		家族に、協力をさらに働きかけてほしい。